



F161 (導入品種)

【普及地域】沖縄県先島地域および南北大東島

F161は、1978年(昭和53年)に先島地域および南北大東島を普及対象に沖縄県の奨励品種に採用されました。早期高糖で3作型ともに収量の多い品種です。



左:剥葉前の茎
右:剥葉し、日光にさらされた茎



芽子



立毛状態

来歴組合せ ♀F146 × ♂F149

重要特性

1959年(昭和34年)に台湾糖業研究所において台湾育成品種F146を母本に、F149を父本に用いて人工交配し、育成された品種です。

- ・NCo310と比較して根数、根量が少ない。
- ・肥沃地向けの品種であり、多肥やかん水による増収効果が高い。

■石垣島における春植え・株出し1月収穫の特性(昭和51~52年平均)

	原料茎数(本/a)	一茎重(g)	原料茎重(kg/a)	ブリックス(%)	繊維分(%)	甘蔗糖度(%)	可製糖量(kg/a)
F161	1090 [108]	1109 [136]	1214 [148]	21.7 [108]	13.4 [101]	15.1 [110]	166 [161]
NCo310	1008	814	823	20.1	13.3	13.7	103

※[]内はNCo310を100とした場合の比率。

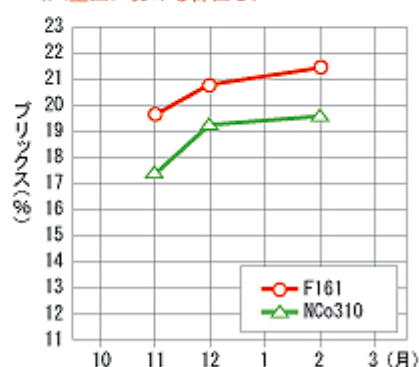
■病害虫抵抗性

	黒穂病	葉焼病	さび病	白条病	メイチュウ抵抗性
F161	強	中	強	強	中
NCo310	弱	中	弱	強	中
F177	極弱	強	やや強	強	弱

■その他、主要な生態的特性

	発芽性	分けつ性	萌芽性	出穂性	風折抵抗性	脱葉性
F161	良	中	中	極少	強	易
NCo310	中	中	良	多	強	難
F177	良	やや弱	やや不良	少	弱	易

■F161のブリックスの上昇(八重山における株出し)



※F161のブリックスはNCo310よりも早期から上昇。



栽培上の注意

- かん水による増収効果が高い品種です。かん水に努めましょう。
- 根量が少ない品種です。深耕と有機物施用により根量を確保することが増収につながります。

F161の形態的特性

草型は立葉で葉幅はNCo310より広く葉色は濃い。茎はNCo310よりも太い。

■葉身・葉鞘関連形質

	草型	葉身長	葉幅	葉色	葉鞘長	葉耳	毛群	ろう物質	花青素(葉鞘)
F161	立葉	やや短	広	やや濃	中	上昇下降	無	多	無
NCo310	中葉	中	中	中	中	上昇下降	無	中	無
F177	やや立	中	広	濃	長	上昇下降	無	多	無

■茎関連形質

	莖葉の形態	茎色		茎長	茎径	亀裂	ろう物質	芽子の形	芽翼	芽子突出度	芽溝
		基本色	複合色								
F161	やや糸巻	黄緑	紫	やや長	中太	少	多	円	中	やや凸	無
NCo310	円筒	黄緑	褐	中	中細	小	中	円	やや広	やや凸	無
F177	糸巻	黄緑	褐紫	長	中太	小	多	円	中	やや水平	無



- 他品種と比べてやや葉が広く、立葉です。
- 他品種と比べて梢頭部が大きい。
- 芽子はやや大きい。